

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 3 月 調査結果 - -

(平成 1 7 年 3 月 3 1 日)

調査期間：平成 1 7 年 3 月 1 7 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 5 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 3 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 1 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年3月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小するも、景況の不透明感が続く

3月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.5）よりマイナス幅が3.1ポイント縮小して33.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、製造を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も縮小した。引き続き業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「市町村合併に伴う公共工事の発注に期待している」（一般工事）との声がある一方、「県の公共工事は6年連続減少となっており、厳しい状況が続くことが予想される」（一般工事）、「年度末の受注回復を期待していたが、受注減となっている」（建築工事）、「民間企業の設備投資が低調」（土木工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「受注は順調に推移」（金属加工機械）、「業況は底を打った感じ」（電子部品）といった声の一方、「半導体の受注は、昨年12月を底にわずかながら回復の兆しがあるが、市場状況が不透明で本格的な回復とは言えない」（電子部品）、「一時期の受注上昇傾向も落ち着いた感があり、今後の見込みについては慎重な見方が多い」（化学工業）との声や、「原材料の値上がりが増え、先行きは一層慎重に見ている」（電気機器）、「原材料高が続いており、物によっては品不足になっている」（有機化学製品）と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「業況はやや上向き傾向で、春先の需要に期待」（食料、飲料）、「業況は平年並みに推移しているが、雰囲気的には少し上向きそうな気配がみられる」（各種商品）との声はあるものの、「業務用品は決算需要で出荷数が増えているが、家庭用ギフト品は動きが鈍い」（家具、建具）、「業界全体に活気がなく、企業間格差が広がっている」（衣服、日用品）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「天候が暖かくなるとともに、カジュアル衣料を中心とした春物衣料に動きが出てきた」（商店街）、「行楽期を迎え売上増に期待」（商店街）といった声の一方、「景気の先行き期待感により消費は堅調に推移すると思われるが、所得増による裏付けがないと夏前には調整局面となる可能性がある」（百貨店）との声や、「一向に景気も業況も良くなってこない」（各種小売）、「正月より2、3月のほうが人の動きが鈍くなっている」（商店街）といった声が寄せられている。

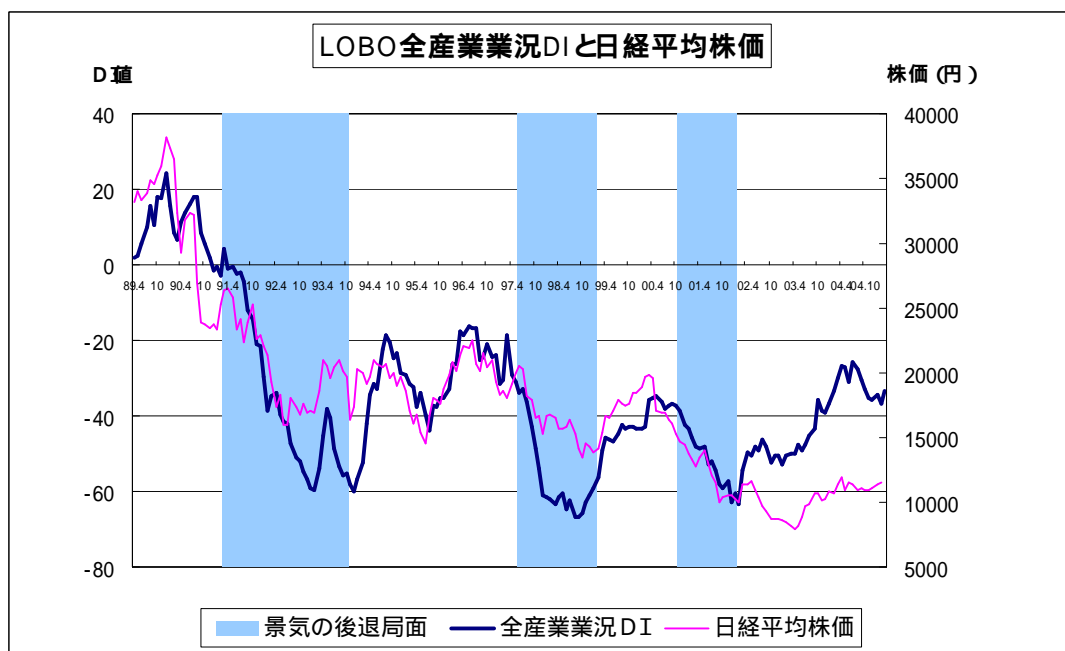
【サービス業】では、「歓送迎会シーズンに入り、昨年に比べて予約が好調」（食堂、レストラン）との声の一方、「仕事の依頼は多数あるが、単価が下落傾向」（建物サービス）、「個人消費はほとんど良くなっておらず、土日、祝日でも業績は大きく前年割れとなっている」（福岡・スポーツ施設）といった声のほか、「荷動きの低迷に加えて、燃料の軽油が値上げ傾向にあり、採算が悪化している」（運輸）と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は 5 . 1 ポイント縮小して 3 0 . 4 となり、8 カ月ぶりに縮小した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は 2 . 5 ポイント縮小して 3 2 . 9 となり、2 カ月ぶりに縮小した。

向こう3 カ月(4 月～6 月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース) が 2 7 . 4 と、昨年同時期の先行き見通し(2 4 . 8) に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声がある一方、引き続き公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く見られた。



【業況についての判断】

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.5）よりマイナス幅が3.1ポイント縮小して33.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

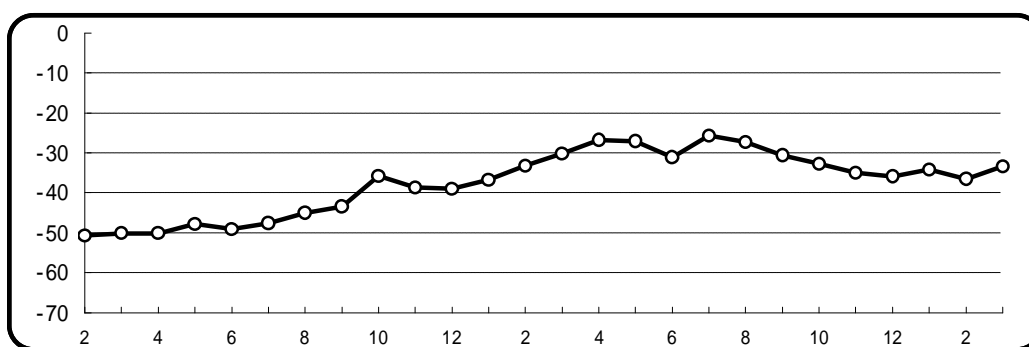
向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が27.4と、昨年同時期の先行き見通し（24.8）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	32.8	35.0	35.9	34.2	36.5	33.4	27.4 (24.8)
建設	48.1	47.1	47.3	48.2	47.2	42.9	39.8 (49.1)
製造	16.6	15.6	20.2	21.8	23.4	24.0	20.6 (19.2)
卸売	31.3	26.5	35.6	34.7	43.8	36.1	24.8 (13.9)
小売	37.2	43.6	46.3	37.2	40.5	34.0	26.8 (23.3)
サービス	35.2	41.0	33.1	34.8	36.0	35.5	27.8 (20.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年3月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

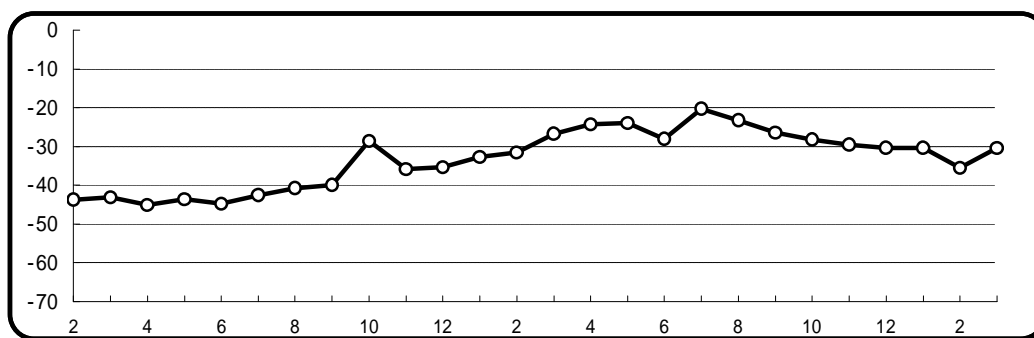
売上面では、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の売上D I は5.1ポイント縮小して 30.4 となり、8 カ月ぶりに縮小した。

向こう3 カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 19.7 と、昨年同時期の先行き見通し(21.2)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年			17年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	28.2	29.5	30.3	30.3	35.5	30.4	19.7 (21.2)
建設	43.1	39.6	44.5	44.4	48.5	40.0	39.1 (47.3)
製造	4.0	5.4	11.1	12.6	20.3	10.0	9.1 (15.1)
卸売	28.3	26.5	21.3	31.7	45.0	36.7	22.3 (13.3)
小売	37.3	39.9	44.8	39.1	41.0	39.5	17.7 (18.7)
サービス	33.3	37.3	27.7	29.2	32.9	32.0	19.4 (16.4)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

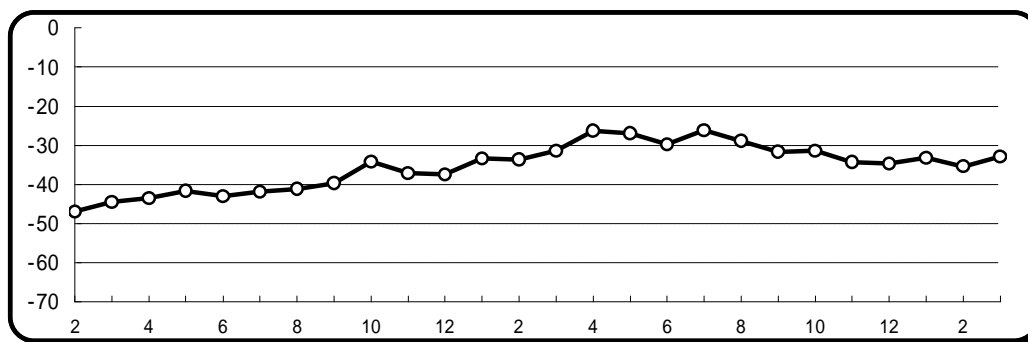
採算面では、D I 値のマイナス幅は全業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は2.5ポイント縮小して 32.9となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 24.1と、昨年同時期の先行き見通し(25.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	31.4	34.3	34.7	33.2	35.4	32.9	24.1 (25.1)
建設	45.9	47.1	47.4	49.1	52.0	49.5	40.5 (46.9)
製造	22.9	22.2	27.5	25.9	29.4	24.7	21.0 (25.1)
卸売	22.9	25.3	24.4	27.1	32.5	24.7	17.2 (17.5)
小売	31.9	36.5	42.3	34.7	32.4	31.8	19.5 (19.0)
サービス	33.5	39.6	29.0	31.4	35.5	35.0	24.6 (20.7)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	21.7	24.6	24.0	24.2	24.5	25.0	20.6 (22.7)
建設	37.8	43.7	38.8	41.5	40.0	39.4	34.3 (42.6)
製造	15.5	16.5	20.7	20.9	18.5	19.7	16.9 (18.3)
卸売	16.4	23.6	18.5	17.8	23.5	21.3	14.8 (20.8)
小売	19.8	21.6	22.0	19.0	21.7	23.3	18.4 (17.0)
サービス	20.7	23.1	21.3	23.8	23.5	23.6	20.1 (21.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、卸売で悪化超感が弱まったが、製造、小売、サービスで強まったため、全産業合計でも3カ月連続でやや強まる。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	21.2	22.8	19.9	19.1	16.9	16.6	15.5 (9.8)
建設	27.8	28.8	25.4	24.0	21.0	25.3	24.3 (15.9)
製造	33.7	37.5	33.9	38.4	32.6	35.8	30.8 (21.6)
卸売	18.7	22.9	22.6	17.4	12.6	12.7	14.7 (6.1)
小売	9.6	9.3	6.7	3.6	5.3	1.0	2.3 (1.0)
サービス	18.0	19.3	15.6	13.9	13.1	10.8	9.3 (7.5)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、卸売で上昇超感が強まったが、小売、サービスで弱まったため、全産業合計でも4カ月連続で弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	6.1	5.4	6.9	6.6	6.7	6.6	6.5 (9.8)
建設	22.0	23.6	23.8	23.9	26.2	23.0	19.5 (29.3)
製造	5.0	3.2	6.0	5.0	7.3	7.7	7.1 (9.0)
卸売	10.8	7.8	9.4	6.6	8.1	8.2	10.8 (7.9)
小売	1.4	1.4	3.1	1.2	0.6	1.4	0.9 (4.4)
サービス	0.2	2.7	0.0	3.4	1.0	3.3	1.6 (3.9)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】製造、卸売、サービスで過剰超感が強まったが、建設、小売で弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりにやや弱まる。

【先行き見通し D I】卸売を除く4業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年3月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられており、「公共事業依存度が高いため、事業予算の削減により厳しい環境が続くと思われる」（甲府・一般工事）「関東、東海など大都市圏も営業エリアとする一部企業では受注があるものの、大半の企業は受注減少と単価下落により業況は厳しい」（和歌山・建具製造）「売上減少の傾向のうえ、年度末で在庫調整している様子も見られ、今後の見通しは全く読めない状況」（加茂・金属加工機械製造）「中央市場全体の取扱量が減少して売上も減少しており、価格も大手流通業の低価格化の影響により下落傾向にある」（茨木・農畜産水産物卸売）「景気回復の兆しは見えず、個人消費の早期回復を願いたい」（横浜・商店街）「売上単価の下落や新規参入業者の増加などにより、入域観光客数は増加しているが、昨年からの毎月売上額が減少している」（那覇・旅館）といった声が寄せられている。また、「個人消費財の売上減少が続いており、原油や鉄鋼といった原材料価格の動きなどから、今後も採算面の厳しさが予想される」（帯広・各種商品卸売）「燃料価格の上昇が止まらず、運賃単価も安いため、収益を圧迫している」（京都・運輸）と、引き続き仕入コスト上昇による厳しい状況を訴える声のほか、「愛・地球博の開幕により、来月以降観光客の減少が懸念される」（加賀・旅館）とのコメントも寄せられている。

回復への動き

各業種から、業況は好調との声が寄せられており、「新潟県中越地震の復旧工事で年度末までフル稼働の状況」（長岡・電気工事）「増改築工事が増加」（唐津・建築工事）「設備投資を行う企業が増加している」（小松・建設、鉱山機械製造）「中国での需要が高水準のため好調を維持している」（川越・金属製品製造）「航空機関連の受注が伸びている」（各務原・輸送用機器製造）「全般的に受注、生産とも順調」（豊橋・自動車、同附属品）といった声が寄せられている。また、「愛・地球博開幕に伴いライセンスグッズをはじめとする、陶磁器関連商品の売上が期待される」（瀬戸・陶磁器、同関連）との声や、「インド、中国など繊維輸出国の環境好転により、生産、受注とも回復してきており、明るい材料となっている」（大阪・繊維機械製造）「特選品、高額品の売上回復傾向が続いている」（札幌・百貨店）「新卒者の購買意欲の高まりから、中古車、小型車の売れ行きが好調」（釧路・自動車小売）、「年度末、年度初めの、人の移動シーズンによる売上増に期待」（高鍋・商店街）「歓送迎会の予約増加により売上も上昇」（福山・食堂、レストラン）「業界全体が上向きの気運になりつつあるように感じる」（守口門真・デザイン）と、業況の回復や先行きに期待する声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード	
17年	1月	悪化への懸念	回復への動き
	2月	悪化への懸念	回復への動き
	3月	悪化への懸念	回復への動き

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「市町村合併に伴う公共工事の発注に期待している」(一般工事)との声がある一方、「通常、年度末はある程度の受注がみられるが、今年は遅れており先行き不安」(建築工事)、「県の公共工事は6年連続減少となっており、厳しい状況が続くことが予想される」(一般工事)、「年度末の受注回復を期待していたが、受注減となっている」(建築工事)、「民間企業の設備投資が低調」(土木工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大し、売上D Iは5カ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「受注は順調に推移」(金属加工機械)、「業況は底を打った感じ」(電子部品)といった声の一方、「半導体の受注は昨年12月を底にわずかながら回復の兆しがあるが、市場状況が不透明で本格的な回復とは言えない」(電子部品)、「一時期の受注上昇傾向も落ち着いた感があり、今後の見込みについては慎重な見方が多い」(化学工業)との声や、「窯業界はまだ明るい兆しは見えてこない」(陶磁器、同関連)といったコメントが寄せられている。また、引き続き、「原材料の値上がり止まらず、先行きは一層慎重に見ている」(電気機器)、「原材料高が続いており、物によっては品不足になっている」(有機化学製品)と、仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは2カ月ぶり、売上、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「業況はやや上向き傾向で、春先の需要に期待」(食料、飲料)、「業況は平年並みに推移しているが、雰囲気的には少し上向きそうな気配がみられる」(各種商品)との声はあるものの、「業務用品は決算需要で出荷数が増えているが、家庭用ギフト品は動きが鈍い」(家具、建具)、「業界全体に活気がなく、企業間格差が広がっている」(衣服、日用品)、「年初から売上は低迷を続けている」(農畜産水産物)といった声が寄せられている。
小 売	業況、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が縮小した。「天候が暖かくなるとともに、カジュアル衣料を中心とした春物衣料に動きが出てきた」(商店街)、「雑貨、食品、住宅関連は好調で、売上は前年同月比で増加」(百貨店)、「行楽期を迎え売上増に期待」(商店街)といった声の一方、「景気の先行き期待感により消費は堅調に推移すると思われるが、所得増による裏付けがないと夏前には調整局面となる可能性がある」(百貨店)との声や、「一向に景気も業況も良くなってこない」(各種小売)、「正月より2、3月のほうが人の動きが鈍くなっている」(商店街)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「歓送迎会シーズンに入り、昨年に比べて予約が好調」(食堂、レストラン)との声の一方、「仕事の依頼は多数あるが、単価が下落傾向」(建物サービス)、「業界全体では業況は横ばいだが、同業者間の業績格差が広がっている」(自動車整備)、「個人消費はほとんど良くなっておらず、土日、祝日でも業績は大きく前年割れとなっている」(福岡・スポーツ施設)といった声のほか、「荷動きの低迷に加えて、燃料の軽油が値上げ傾向にあり、採算が悪化している」(運輸)と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北陸信越、東海でマイナス幅が拡大したが、他の7ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに縮小した。

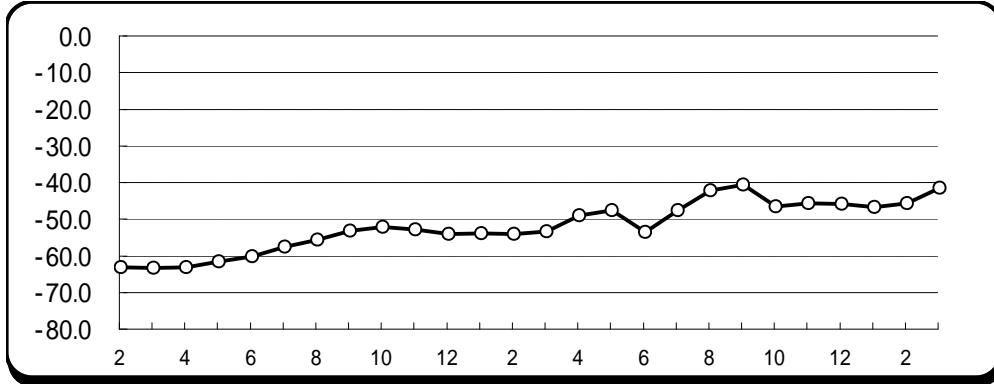
ブロック別の向こう3カ月（4月～6月）の業況の先行き見通しは、北海道、東海、近畿、四国で昨年同時期と比べて改善したが、他の5ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

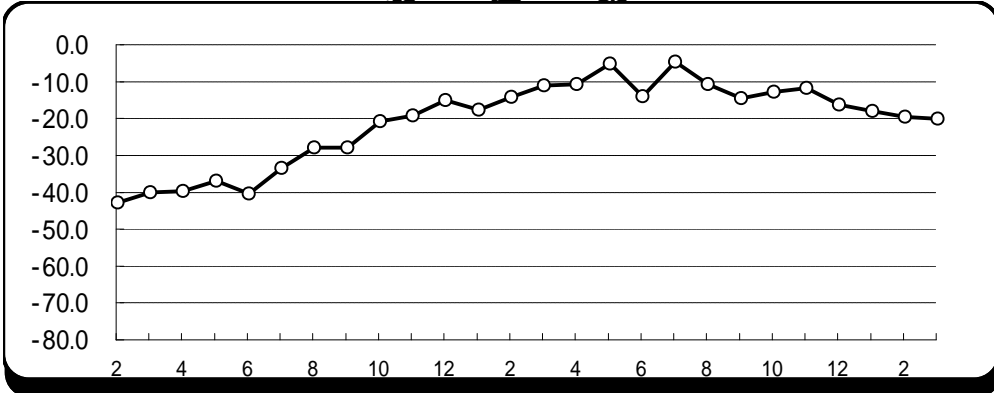
	16年 10月	11月	12月	17年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	32.8	35.0	35.9	34.2	36.5	33.4	27.4 (24.8)
北海道	23.7	33.3	39.7	37.1	30.8	27.9	21.6 (30.2)
東 北	37.9	42.3	50.3	44.0	40.8	38.3	37.7 (25.9)
北陸信越	33.1	37.3	34.3	26.1	35.9	39.5	30.2 (14.5)
関 東	27.0	31.6	30.0	30.7	32.4	29.4	22.3 (21.7)
東 海	20.0	23.7	27.3	29.0	25.1	25.9	24.1 (27.0)
近 畿	37.5	40.8	35.9	38.9	44.0	38.1	27.5 (28.3)
中 国	42.1	31.8	40.4	35.8	39.3	36.2	33.8 (30.3)
四 国	49.3	42.2	40.4	35.9	48.6	34.7	20.8 (31.9)
九 州	33.2	35.2	37.8	35.8	36.8	34.3	34.3 (21.9)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

建設業



製造業



卸売業



小売業



サービス業

